

# 人馬一体 風の向こうへ

谷原 柚希さん

この街  
あの人  
この人



谷原柚希さんは、令和4年度日本中央競馬会（JRA）競馬学校騎手課程の試験に見事合格しました。先月、小中一貫校加茂学園を卒業し、今月から騎手になるための3年間の学校生活が始まります。

## 騎手になりたい

小さい頃、横浜市に住んでいた柚希さんは祖父である長谷川一誠さんが立ち上げた乗馬クラブ『長谷川ライディングファーム』（市原市山口）に週末に遊びにきては馬と触れ合っていました。

「乗馬を始めたきっかけを聞かれたりしますが、小さい頃から馬と触れ合っていたので、いつの間にかそれが当たり前になった。

小さい頃の遊びの一つです。小学4年生の時に、JRAで活躍する藤田菜七子さんに憧れ、騎手になりたいと決意した柚希さん。当時、通っていた小学校の10歳を祝う行事「2分の1成人式」で、騎手への夢を発表しました。

騎手になりたいと決意した柚希さんは、馬と一緒に過ごせる時間を増やし、叔父で現在の長谷川ライディングファーム代表でもある長谷川誠さんのいる市原市へ、中学1年生の時に移住しました。誠さんは、全国でも数少ない全国乗馬倶楽部振興協会認定の上級指導者資格を持ちます。

親元を離れ、単身で市原市に引っ越してきた柚希さんは、祖父母と一緒に住み始め

ます。学校に通いながら、乗馬クラブで毎日馬の世話を手伝いながら、誠さんと二人三脚で騎手になるための練習に取り組んできました。

## 狭き門を突破

JRA競馬学校騎手課程の入学試験は全国から166人の応募があり、8月中旬に行われた一次の学力試験で34人、9月30日から10月3日の3泊4日で行われた二次試験の実技・適性検査・面談を通過した9人が合格となりました。女性の合格者は2人で千葉県では柚希さんただ一人の合格です。見事、倍率18倍超の狭き門を突破しました。

「競馬学校の応募資格の一つに体重があるんですけど、試験に合格した後も毎日体重管理をしています。騎手になったときに規定の体重を超えてしまうとレースに出走できないので、そういったことが絶対ないように学校に入学してからはなく、今から体重管理は始まっています」

特に身長が伸びると体重管理も難しくなるため、柚希さんは中学時代に身長が約14センチメートル伸びたことで、体重管理に苦労したそう。「今でもおやつなどの間食はしませんが、たまに糖質オフのアイスを少しだけ食べます」と笑って話します。

## 風のように駆け抜ける

「市原に住み始めて馬と一緒に過ごせる時間が増えたのはもちろん、こうした環境で過ごさせてくれる家族や学校、友だちなど本当に周りに恵まれました。騎手になったら、日本ダービーとフランスの凱旋門賞を獲りたいという夢がありますが、一番は家族や友だち、応援してくれた人たちへの恩返しがしたいです」と話す柚希さんの3年後が待ち遠しいです。市原の期待の星は夢に向かって今日も駆け抜けます。



柚希さん(中央)と祖父母の長谷川一誠さん夫妻(右)、叔父の誠さん夫妻(左)



上:フェアリーレイに乗り、さっそうと駆け抜ける

右:厩舎では、毎日、馬の世話を欠かさない



柚希さんとサラブレッドのフェアリーレイ